森岡清美教授　経歴・著作目録

経　歴

一九二三年一〇月二八日　三重県阿山郡阿波村（現・大山田村）下阿波三二一番地に生まれる

学　歴

一九三〇年　四月　三重県阿山郡阿波尋常高等小学校尋常科入学
一九三八年　三月　右、高等科卒業
　　同　年　四月　三重県師範学校本科一部入学
一九四三年　三月　右、卒業
　　同　年　四月　東京高等師範学校文科一部入学
一九四五年　三月　右、第二学年修了

一九四五年　四月　東京文理科大学哲学科倫理学専攻入学
一九四八年　三月　右、卒業
同　年　四月　東京文理科大学研究科に特別研究生として入学
一九五〇年　三月　右、前期修了
一九六一年　六月六日　学位令により文学博士の学位を授与される

職　歴

一九五〇年　四月　東京文理科大学助手
一九五二年　三月　東京文理科大学講師に昇任
一九五四年一〇月　東京教育大学助教授（文学部）に昇任
一九五六年　四月　東京教育大学大学院文学研究科授業担当
一九七四年　五月　東京教育大学教授（文学部）に昇任
同　年一〇月　東京教育大学評議員併任
一九七七年　四月　東京教育大学文学部長併任
一九七八年　三月三一日　東京教育大学の廃学により辞職、東京教育大学名誉教授の称号を授与される

一九七八年　四月　成城大学教授（文芸学部）
一九八四年　四月　成城大学民俗学研究所長併任（三期、六年間）
　　同　年　同月　成城大学評議員併任（一九九三年三月三一日まで）
一九八五年　七月　成城大学文芸学部長併任（一九八六年三月三一日まで）
一九八九年一〇月　成城大学大学院文学研究科長併任（一九九三年三月三一日まで）
一九九一年　六月　成城学園評議員併任（一九九四年一月まで）
一九九四年三月三一日　定年により退職

この間、左記大学等の教育研究機関に非常勤講師・客員所員等として勤務した。（北から南へ）

北海道大学（文学部・文学研究科）、東北大学（文学部・文学研究科、教育学部・教育学研究科）、秋田大学（教育学部）、放送大学（教養学部）、東京大学（文学部・社会学研究科、東洋文化研究所）、お茶の水女子大学（家政学部）、東京都立大学（社会科学研究科）、慶応義塾大学（文学部・社会学研究科、経済学部）、国際基督教大学（教養学部、社会科学研究所）、上智大学（文学部）、聖心女子大学（文学部）、大正大学（文学研究科）、中央大学（文学研究科）、津田塾大学（学芸学部）、東洋大学（社会学研究科）、東洋英和女学院（専攻科）、日本女子大学（文学研究科）、山梨大学（教育学部）、上越教育大学（学校教育学部）、金沢大学（法文学部）、名古屋大学（文学部）、龍谷大学（文学部・文学研

究科）、大阪大学（文学部・文学研究科、人間科学部・人間科学研究科）、山口大学（人文学部）、熊本大学（法文学部）、琉球大学（教育学部）、最高裁判所調査官研修所、特殊法人社会保障研究所、ミシガン大学（日本研究センター）。

学界活動

一九六八年一〇月　日本社会学会理事、国際関係担当（任期二年）
一九七〇年　九月　国際社会学会（ＩＳＡ）評議員、理事（任期四年）
同　年一〇月　日本社会学会理事、国際関係担当（任期三年）
一九七一年　九月　宗教社会学国際会議（ＣＩＳＲ）理事（二期、六年間）
一九七六年一〇月　日本社会学会理事、『社会学評論』編集担当（任期三年）
一九八二年一〇月　日本社会学会理事、国際関係担当（任期三年）
一九八八年一〇月　日本社会学会会長（任期三年）
一九九一年　七月　日本学術会議会員（第一五期）
同　年　九月　日本学術会議社会学研究連絡委員会委員長（第一五期に対応）
一九九二年　九月　日本家族社会学会会長（任期三年）
一九九二年一〇月　日本社会学会顧問

ほかに、現在、日本宗教学会理事、日本ストレス学会理事、日本発達心理学会理事、国際宗教研究所理事。

社会的活動

一九六八年　六月　経済企画庁国民生活審議会臨時委員（一九七〇年一二月まで）
一九七四年　一月　厚生省厚生統計協議会委員（四期八年間）
一九七七年　七月　文部省大学設置審議会専門委員（一九八三年三月まで）
一九八一年　四月　文教学園理事（六年間）
一九八六年　一月　東京都高齢社会問題調査会会長（一九八七年九月まで）
同　年　四月　厚生省人口問題研究所評議員（五年間）
同　年　七月　科学技術庁資源調査会専門委員、小児期形成小委員会委員長（一九八九年八月まで）

現在、厚生省人口問題研究所研究評価委員、総理府婦人問題有識者会議委員、同・第四回世界婦人会議日本国内委員会委員、東京都児童審議会委員、第五期世田谷区女性問題懇話会委員。

受賞

一九五四年　三月　論文「日本農村における基督教の受容」により東京文理科大学閉学記念賞
一九六三年一〇月　著書『真宗教団と「家」制度』により日本宗教学会姉崎記念賞
一九七四年一一月　著書『家族周期論』により尾高記念社会学賞
一九九〇年　四月　宗教社会学への貢献により紫綬褒章

著作目録

著書

① 『地方小都市における基督教会の形成』日本基督教団宣教研究所、一九五九年。（新保満と共著）

② 『真宗教団と「家」制度』創文社、一九六二年、一九七八年（増補版）。

③ 『日本の近代社会とキリスト教』評論社、一九七〇年。

④ 『家族周期論』培風館、一九七三年。

⑤ *Religion in Changing Japanese Society*, University of Tokyo Press, 1975.

⑥ 『現代社会の民衆と宗教』評論社、一九七五年。

⑦ 『真宗教団における家の構造』御茶の水書房、一九七八年。

⑧ 『新しい家族社会学』培風館、一九八三年、一九八七年（改訂版）、一九九三年（三訂版）。（望月嵩と共著）

⑨ 『家の変貌と先祖の祭』日本基督教団出版局、一九八四年。

⑩ 『近代の集落神社と国家統制』吉川弘文館、一九八七年。

⑪ 『家族関係―現代家族生活の社会学―』放送大学教育振興会、一九八七年（望月嵩と共著）。

⑫『新宗教運動の展開過程』創文社、一九八九年。
⑬『現代家族の社会学』放送大学教育振興会、一九九一年。
⑭『決死の世代と遺書』新地書房、一九九一年。吉川弘文館、一九九三年（補訂版）。
⑮『現代家族変動論』ミネルヴァ書房、一九九三年。
⑯『私の歩んだ道』私家版、一九九三年。

編著書

①『家族社会学』有斐閣、一九六七年。
②『二世代比較法による社会変動の研究』東京教育大学社会学研究室、一九六七年。
③『現代社会学の基本問題』有斐閣、一九六八年。（山根常男と共編著）
④ *The Sociology of Japanese Religion*, Leiden: E.J. Brill, 1968.（With W. H. Newell）
⑤『家族社会学』（社会学講座第3巻）、東京大学出版会、一九七二年。
⑥『新・家族関係学』中教出版、一九七四年。
⑦『家と現代家族』培風館、一九七六年。（山根常男と共編著）
⑧『現代家族のライフサイクル』培風館、一九七七年。
⑨『家族』（テキストブック社会学2）、有斐閣、一九七七年。

⑩『入門社会学』（テキストブック社会学1）、有斐閣、一九七八年。（本間康平・高橋勇悦と共編著）

⑪『変動期の人間と宗教』未来社、一九七八年。

⑫ *Family and Household in Changing Japan* (Special Issue, *Journal of Comparative Family Studies*, 12 [3]), 1981. (With T. Koyama and F. Kumagai)

⑬『ライフコースと世代―現代家族論再考―』垣内出版、一九八五年。（青井和夫と共編著）

⑭ *Family and Life Course of Middle-Aged Men*, The Family & Life Course Study Group, 1985.

⑮『近現代における「家」の変質と宗教』新地書房、一九八六年。

⑯『現代日本人のライフコース』日本学術振興会、一九八七年。（青井和夫と共編著）

⑰『生者と死者―祖先祭祀―』（シリーズ家族史1）、三省堂、一九八八年。（石川利夫・藤井正雄と共編著）

編集・監修・監訳

①『社会学用語辞典』学文社、一九七二年、一九七七年（改訂版）、一九八五年（新版）、一九九二年（全訂版）。（鈴木幸寿・秋元律郎・安藤喜久雄と）

② *Sociology and Social Development in Asia*, University of Tokyo Press, 1974. (With T. Fukutake)

③ 石原邦雄編『社会学概論』全社協社会福祉研修センター、一九八二年、一九八六年（改訂版）。

④ *Family and Community Changes in East Asia*, Japan Sociological Society, 1985 (With K. Aoi and J. Suginohara)

⑤ R・L・ハワード著・矢野和江訳『アメリカ家族研究の社会史』垣内出版、一九八七年。

⑥ 現代家族問題シリーズ、培風館、一九九一年から刊行。(正岡寛司・石原邦雄と)

⑦『新社会学辞典』有斐閣、一九九三年。(編集代表の一人として)

⑧ 佐竹洋人・望月嵩・石原邦雄・堤マサエ編『家族社会学の展開』培風館、一九九三年。

論　文

省略。一九四八年から八五年までの論文は、「森岡清美　年譜・著作目録」(一九八六年刊、非売品)に、一九八六年以後現在までのものは、森岡清美『私の歩んだ道』(一九九三年刊、私家版)に、詳しく掲載されている。